

⑪岩下の田の神（勝岡地区）



霧島山を望む

- ・所在地 大字蓼池字岩下
- ・型式 神官座像型（僧形座像型？）
- ・像高 51センチ
- ・被り物 茶帽子風
- ・持ち物 不明
- ・建立年代 不明
- ・備考 この田の神は、勝岡地区岩下の用水路南の田んぼの脇にあります。高才原墓苑から見て西方下の田んぼです。彩色が施されており、西向きに座って西の田んぼ一帯を見守っているとも取れますが、三股町教育委員会発行の『田の神』（小冊子、発行年不明）には、霧島山に真っ直ぐに向いているとあります（実際は、若干南西に向いていますが…）。諸県地方に神像型（神官型）が多く分布するのは、霧島の噴火を鎮める願いが込められていたためとも言われています。五穀豊穰と併せて田畑守護も願って田の神像を作成したようです。霧島山に向いていると書きながら、教育委員会がこの田の神をなぜ僧形に分類しているのかわかりません。但し、この分類は統計やその分布を把握する上では確かに重要ですが、その土地に住む人々の思いや願い、あるいは苦労というものを慮れば些末なことでしょう。
また、この田の神は、前掲冊子『田の神』によれば、以前は春秋の彼岸に年2回田の神講を行っていたようですが、現在は4月18日に行っているとあります。